

令和元年度 社会福祉法人 ポプラ福祉会 ポプラこども園自己評価集計表
(対象職員：40人)

平成30年度4月1日に施行された保育所保育指針において、「保育所は保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。

本年度、保育園から認定こども園に移行したことにより、取り組む重要事項として下記の2つを掲げています。

- ◎保育所型認定こども園教育・保育要領を理解し、指導計画を作成し教育・保育にあたる。
- ◎1号認定児の受け入れによってカリキュラムの変更等考慮する。

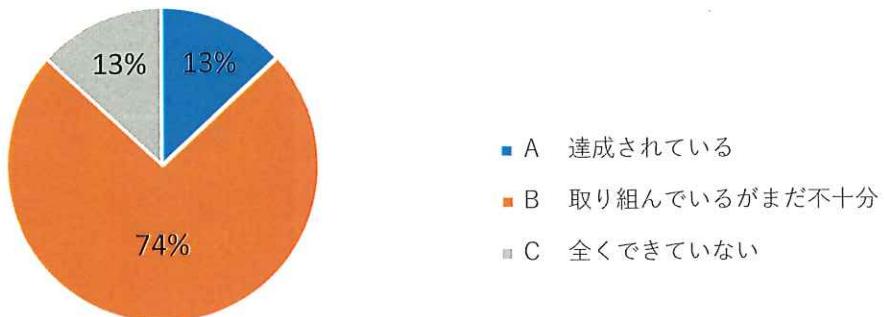
<評価について>

評価をするにあたっては、以下のような基準で評価を行っています。

A…達成されている B…取り組んでいるがまだ不十分 C…全くできていない

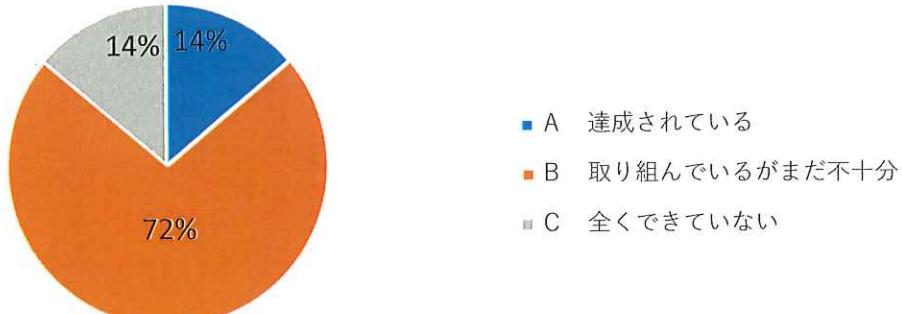
1. 認定こども園についての理解

- | |
|--|
| 1) 認定こども園についての法令を知っていますか。 |
| 2) 保育園と認定こども園の違いを理解し、保護者・来園者に分かりやすく説明することができますか。 |



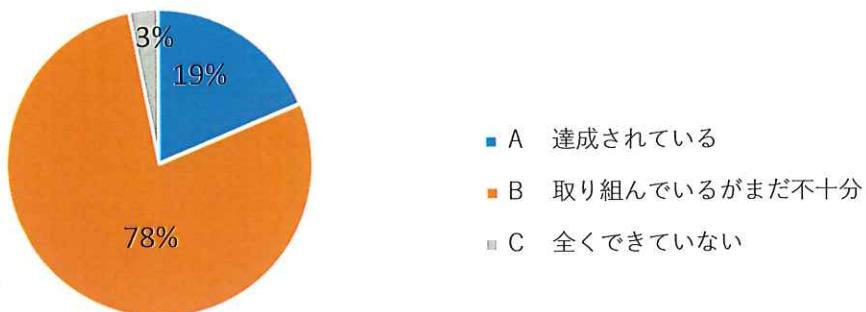
2. 保育理念・保育・教育目標の理解と説明

- (1) 本園の理念・目標を理解し、保護者・来園者等に分かりやすく説明できますか。



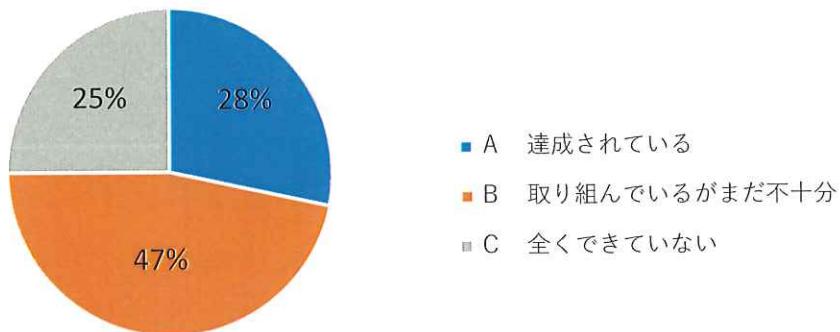
3.認定こども園教育・保育要領についての理解

- (1) 教育・保育を展開するにあたり園児の発達の連続性を考慮し、園児一人ひとりの状況に応じた教育・保育過程を展開していますか。



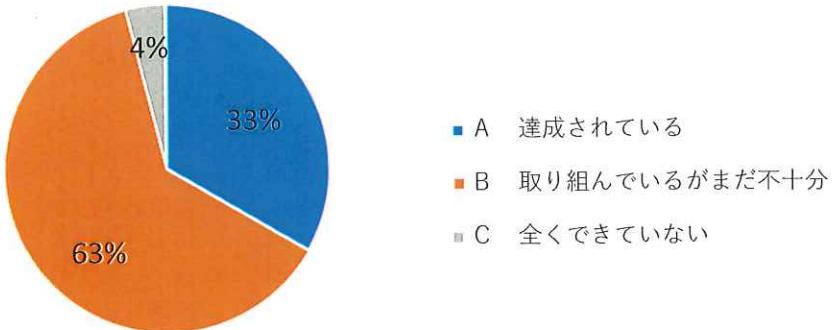
4. 療育支援の理解と取り組み

- (1) 特別な支援の必要な子どもへの個別支援計画を作成し、発達支援をしていますか。
- (2) 臨床発達心理士、関係機関と連携し保育に取り組むとともに保護者の気持ちを受け止め寄り添っていますか。



5. 保健・安全管理について

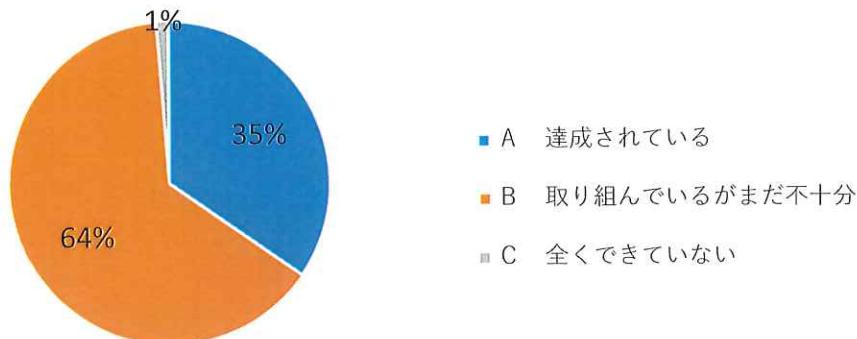
- (1) 学校保健法を把握し、園児の健康についての狙い・内容を理解していますか。
- (2) 事故予防・救急処置・火災・地震・不審者侵入等に臨機応変に対応できますか。



6. 職員間の連携について

(1) 担任外保育教諭間の連携、他職種職員との連携ができますか。

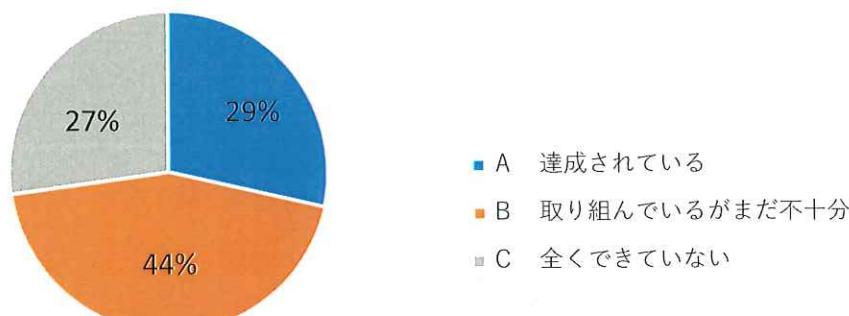
(2) 各クラス間、事務所への報告・連絡・相談（報連相）ができますか。



7. 研修について

(1) 園で定めた園内外の研修に意欲的に参加し、園の保育に還元していますか。

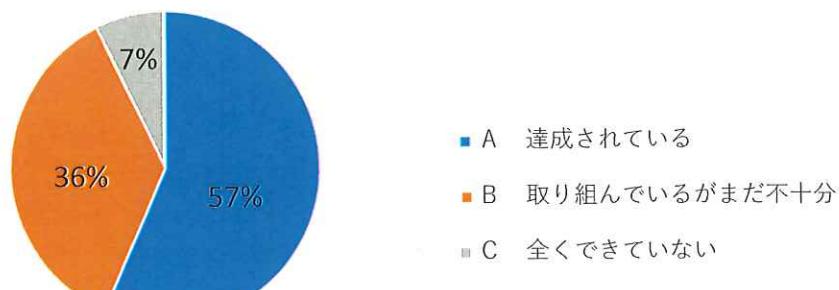
(2) 自己が成長するために進んで自主研修に参加していますか。



8. 保護者との連携について

(1) 連絡帳のみに頼らず、登降園時のわずかな時間でもコミュニケーションを取る努力をしていますか。

(2) 懇親会や保護者面談を通して保護者の子育て感を聞き取り、連携して子育てにあたっていますか。



9. 地域子育て支援について

(1) 地域との交流に意義を感じ積極的に取り組んでいますか。

(2) 地域における子育て家庭に心を寄せ気軽に立ちよる雰囲気がありますか。
(ひろばを含む)



10. 小学校との連携について（5歳児のみ）

(1) 小学校との接続について教育課程に盛り込まれていますか。

(2) 円滑な接続のために小学校の授業参観、懇親会・交流・職員の研修、園訪問を実施していますか。



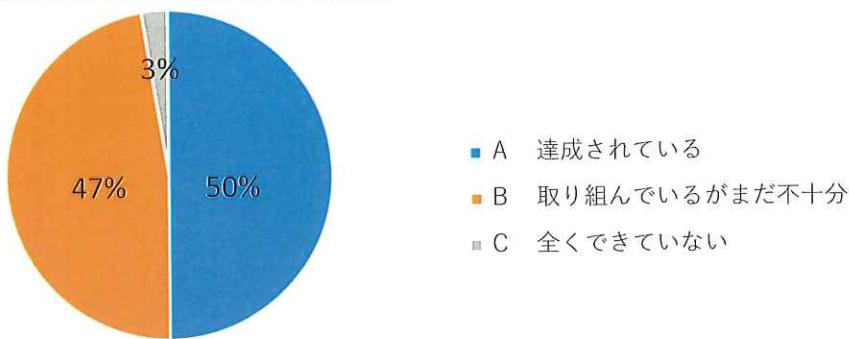
11. 勤務態度について

(1) 全体の奉仕者として自覚を持ち、服務規律などのルールを遵守する中において自らの職責を果たしながら、誰に対しても礼儀正しく、また時間を大切にしています。
また上司の方針に従うことができます。



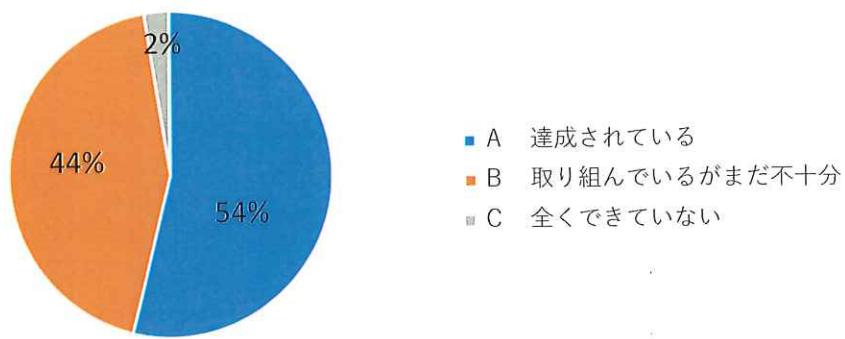
12. 勤務意欲について

- (1) 担当職務並びにクラスに対して常に問題意識を持ち、新たな課題と困難なテーマに常に取り組み、自己の能力を高める努力をしていますか。
(職務に対し、常に問題意識を持って前向きに取り組みましたか。指示を待つことなく主体的、自発的に行動できましたか。)



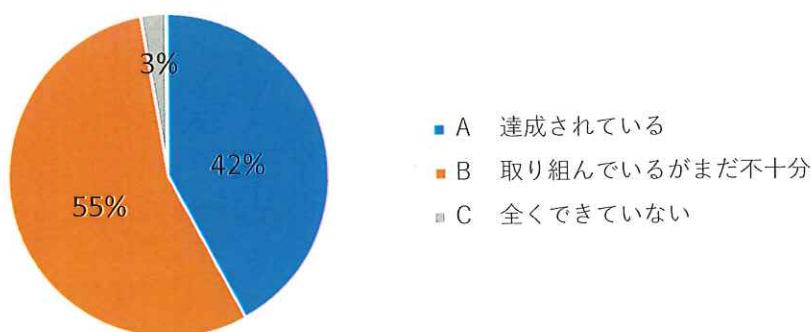
13. 責任感について

- (1) 自己の職務を良く自覚して、担当職務に対しては最後まで完遂する意欲を持ち、他者に責任を転嫁することはありませんでしたか。
(職務を十分自覚し、最後までやり遂げる努力をしましたか。判断、決定に対して責任を転嫁、回避することはありませんでしたか。)



14. 協調性について

- (1) クラス単位の業務の推進を図るために自己のクラスの課題達成、仕事の執行にとどまらず、他のクラスにも連携を深め、好ましい関係を樹立するように努めましたか。
(常にチームワークを意識した行動をとっていましたか。自クラスにとどまらず、他クラスとのコミュニケーションを図っていましたか。)



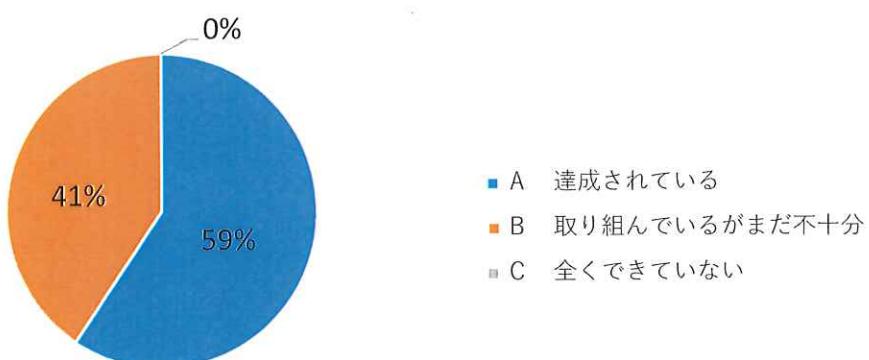
15. あいさつについて

- (1) あいさつの重要性を深く認識し、子どもはもとより、保護者、同僚、来客等に、勤務時間にもかかわらず、積極的に挨拶をすることを周囲に勧行し、自己も実現しています。



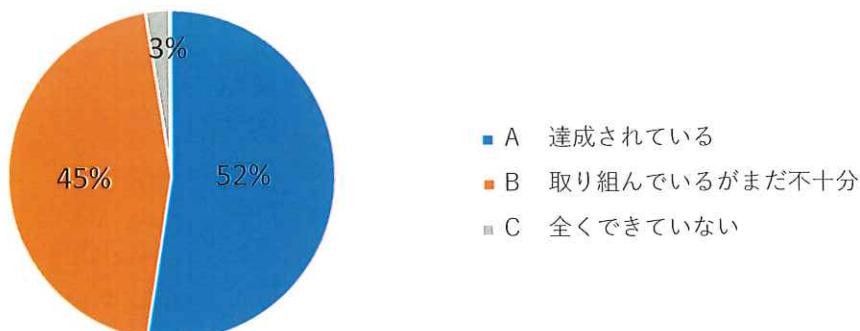
16. 身だしなみについて

- (1) 身だしなみとおしゃれの違いを理解し、常日頃から頭髪や服装を整え、人に好印象を与え、保育士らしい保育に差し支えの無いような身だしなみを心掛けています。



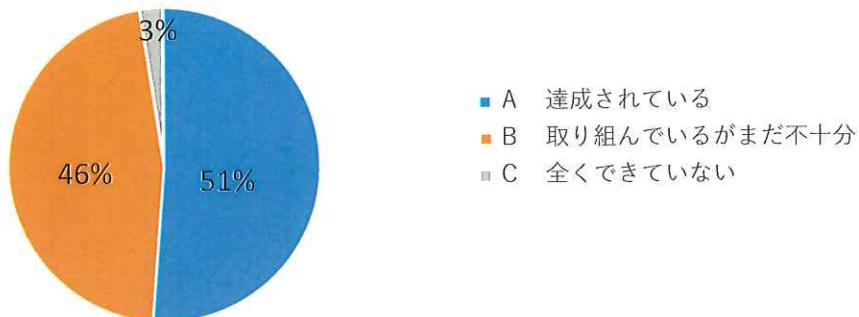
17. 言葉遣いについて

- (1) 子どもに対して常に優しい言葉掛けを心掛けていますか。また、保護者に対し、子どものことや自分の保育のことをわかりやすく正しい言葉遣いで、丁寧に話すようにし、保護者との信頼関係を築いていますか。



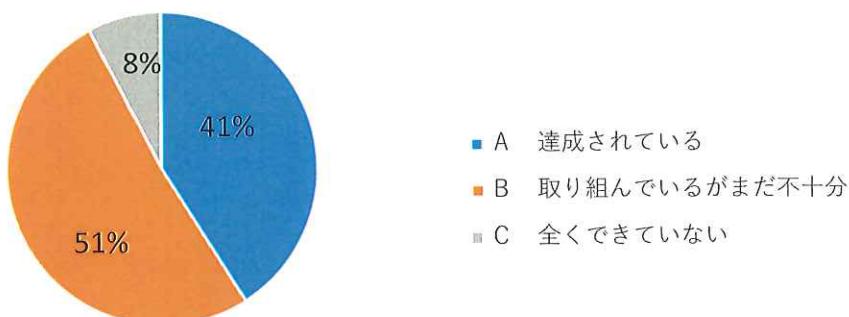
18. 園児への配慮について

- (1) 少なくとも1日1回はクラスのすべての子どもと心の通う会話を心掛けています。
子どもの年齢や発達、個性（障害を含む）、特徴に応じたかかわり方をしています。



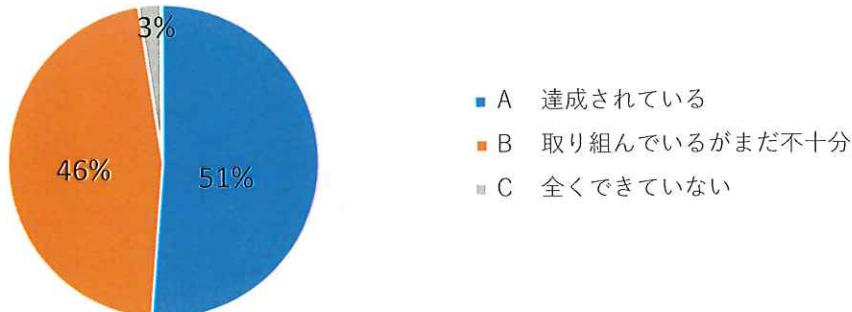
19. 向上心について

- (1) 物事をプラス思考で捉え、失敗があった時も前向きに切り替えながら自分の職務能力をのばすことや経験を積むための取り組みをしています。



20. 改善心について

- (1) 保育計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、次の保育に向けてその専門性、保育の質の向上や保育実践の改善に努めています。
職員相互の話し合い等を通じて保育の質の向上のための課題を明確にするとともにこども園全体の保育内容に関する意識を深めています。



令和元年度 社会福祉法人 ポプラ福祉会 ポプラこども園自己評価 総評

※本年度に取り組んだ重点事項

- ◎認定こども園に移行したことを踏まえ、子ども達一人ひとりが生命の保持が図られ、安定した情緒の下で自己を十分に發揮し、自ら学ぶ力が獲得できるような保育・教育を目指し、指導計画を作成した。
- ◎1号認定児の受け入れによってカリキュラムを考慮する。
- ◎全職員自己評価に基づいて園の評価

<評価について>

評価をするにあたっては、以下のような基準で評価を行っている。

A…達成されている B…取りくんでいるがまだ不十分 C…全くできていない

※評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	具体的な取り組み状況及び改善方法
認定こども園についての理解	B	認定こども園についての説明会を行い、専門性を理解できるように進めたが、まだ不十分の評価の為、再度園内研修にて、認定こども園としての専門性を保育者ひとりひとりが理解できるようにする。
保育理念・保育・教育目標の理解と説明	B	年間指導計画、月案・週案を見直し、保育内容の充実を図った。各学年ごとの改善すべき点を考慮し、認定こども園としての役割が、果たせるよう更に努力していく必要がある。
認定こども園教育・保育要領についての理解	B	学年ごと、認定こども園として特色を生かした保育を計画実施していく。
療育支援の理解と取り組み	B	発達支援センターによる巡回相談と支援センターを交えての支援会議を行い、個別の指導計画を作成し、教育保育する。又、進んで研修に参加したり、園内研修で園全体で理解を深める。
保健・安全管理について	B	危機管理マニュアルを見通し、職員間で訓練等の実践研修を実施。子ども達自身の危機管理能力の向上に繋がるようにした。 食物アレルギーへの理解を深めるための研修を行うとともに緊急時の対応について学び（エピペン）医療機関との連携が図れるように構築していく。

評価項目	評価	具体的な取り組み状況及び改善方法
職員間の連携について	B	職員一人ひとりが食物アレルギー児への対応を共通理解し、安全で安心な食が提供できるよう毎週月曜日に朝礼にて代替食の報告をする。
研修について	B	子ども達の発達や子どもの最善の利益を考慮した保育をすすめるために、園内外の研修に積極的に参加し、職員が自己の向上を図ることができた。
保護者との連携について	A	保護者に対して、丁寧な言葉遣いと気持ちの良い対応を心がけている。 送迎時に子どもの姿を必ず伝えている。 保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている。
地域子育て支援について	B	毎週火・木曜日に子育て応援デーを実施。 来園された方が、心地良い場所であるように、明るく挨拶したり、声をかけたり、園に入りやすい雰囲気づくりを心がけている。
小学校との連携について	B	小1プログラムにおける課題を受け、保護者が安心し、期待感を持って進学できるような取り組みを行っていく。 幼保こ小連絡会議に参加し、課題の解決に努める。
勤務態度について	A	守秘義務を遵守している。 保育時間が多様な働きに貢献できるよう月～土曜日は7時～19時までの12時間行っており、保護者の保育ニーズに応えながら、子どもが安心できるような環境を提供できるように努める。
勤務意欲について	A	保育者同士が協力し、お互いに成長できるような環境の中で子ども達が生きる力を獲得できるような保育を目指す。
責任感について	A	些細な事でも園長・副園長・主幹・担任・副担任で問題解決に向けてよく話しあっており、連携を取るように保育者一人ひとりが心がけている。

評価項目	評価	具体的な取り組み状況及び改善方法
協調性について	B	提出物など期限を守っている。 組織の一員として自分ができることをしようと心がけている。 自分のクラスだけではなく、他のクラスや園全体のことにも気を配っている。 必要な報告・連絡・相談を行っている。
あいさつについて	A	挨拶が不十分であることに対して指摘を受け、職員間で共通理解を図ることにより、一人ひとりの意識がかわり、笑顔で挨拶ができるようになった。
身だしなみについて	A	行事の際は、子どもも保育士も行事に合った服装で臨むようにしている。 子ども達が興味・関心をひくような(動物等)エプロン等で教育保育を行っている。
言葉遣いについて	A	園児を呼ぶ際には「さんづけ」で呼ぶように努めることにより、子ども同士も「さんづけ」で呼ぶ習慣がついてきている。
園児への配慮について	A	特別な支援の必要な子どもに対して、医療機関や地域の専門機関から助言を受け、個別の指導計画作成と保育を行う。 又、園内の研修等で園全体で理解を深めた。
向上心について	B	子どもの発達や子どもの最善の利益を考慮した保育をすすめるために園内外の研修に積極的に参加し、職員が自己の向上を図ることができた。
改善心について	A	日々の保育を見つめ直し、振り返りに努め、活動が意欲的になるように計画していく。

まとめ

今年度、認定こども園に移行し、養護と教育の充実についてはキャリアアップの研修等を積んでおり養護の充実とともに教育的な配慮、子どもの主体性の促しについて多くを学びました。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を園の課程に盛り込んで方向目標とした関わりを心がけるようにしました。行政との連携をしっかりと図りながら、「すべての子どもの最善の利益」をさらに求めていきたいと思っています。

社会福祉法人ポプラ福祉会 ポプラこども園

園長 崎濱 恵利子



2020.3.31